令和５年度　全国学力・学習状況調査の結果について（６年）

令和５年４月 18 日に６年生の全国学力・学習状況調査（国語・算数）を行いました。その結果が集計されたものが以下になります。学校では、この結果や分析を授業改善プログラムに反映するなどして、本校の教育活動の一層の充実と改善を図ってまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

１　調査結果　※　太字は、全国・都平均を上回っているもの。

国　語		平均正答率（%）		
		大泉小	東京都	全国
全　体		**７４**	６９	６７．２
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	**７８．７**	７３．６	７１．２
	(2) 情報の扱い方に関する事項	**６８．３**	６６．５	６３．４
思考力、判断力、表現力等	Ａ　話すこと・聞くこと	**８１．９**	７３．５	７２．６
	Ｂ　書くこと	**３４．４**	２８．９	２６．７
	Ｃ　読むこと	**７５．６**	７３．２	７１．２
問題形式	選択式	**７９．０**	７５．９	７３．６
	短答式	**７６．７**	６６．４	６２．７
	記述式	**５７．４**	５１．４	５１．１

算　数		平均正答率（%）		
		大泉小	東京都	全国
全　体		**７３**	６７	６２．５
Ａ　数と計算		**７７**	７１	６７．３
Ｂ　図形		**６２．２**	５４．８	４８．２
Ｃ　変化と関係		**７６．９**	７５．８	７０．９
Ｄ　データの活用		**７３**	６７．３	６５．５
問題形式	選択式	**７１．８**	６３．２	５７．７
	短答式	**８１．６**	７８．０	７４．７
	記述式	**５８．１**	５２．４	４７．３

（裏面に続く）

2　分析

(1)　国語

大泉小の平均正答率は、全ての項目で都平均と全国平均を上回っています。特に、「話すこと」では都平均より約８ポイント、全国平均より約９ポイント上回っています。新型コロナウイルス感染症のよる制限が少しずつ緩和したことにより、自分の考えを言ったり友達の考えを聞いたりする「対話的な学び」の機会が増えたことが要因であると考えられます。しかし、「書くこと」については都平均や全国平均を上回っていますが、正答率が約３割であること、記述式の正答率が他の問題形式よりも低いことから、「書くこと」に苦手意識があると考えられます。

今後、日常的に自分の考えを相手に分かりやすく伝えることを意識した文章を書くことや児童に推こうさせることを繰り返し指導していきます。

(2)　算数

大泉小の平均正答率は、全ての項目で都平均と全国平均を上回っています。しかし、「Ｂ　図形」においての問題では、正答率が約３割という項目がありました。また、正答率が約３割だった問題は記述式でした。図形では、実際に作業することや分かったことを記述でまとめることに苦手意識があると考えられます。国語でも同様ですが、「書くこと」に重点を置いた指導が、児童の学力をより伸ばすことにつながると考えます。

今後は、習熟度別少人数制の良さをより一層発揮し、それぞれのコースで、児童の実態に合った指導内容を検討します。そして、どのコースでも知識の定着を図り、身に付けた知識を使って自分の考えをもち、文字や絵、図にして表現することを繰り返し、思考力･判断力・表現力を身に付けられるように指導していきます。知識を身に付けるだけでなく、身に付けた知識を使ってよりよい解決方法を考えられるような態度を育て、算数の知識・理解を更に深めていけるようにしていきます。